

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401699		
法人名	有限会社 介護サービス郷の家		
事業所名	グループホーム郷		
所在地	札幌市西区八軒5条西3丁目		
自己評価作成日	令和3. 3. 6	評価結果市町村受理日	令和3. 4. 5

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170401699-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々穏やかに暮らせるような環境作り 入居者の日々の健康管理の徹底 食の楽しみが感じられるように 季節の楽しみが感じられるように
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年3月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム郷」は閑静な住宅街に位置する開設16年目の事業所である。学生寮を改築した建物は木造で昔の風情を残しつつ、利用者の残存機能が活かせるつくりである。浴室に新設した広く明るいユニットバスは利用者が我も我もと楽しみな入浴時間を作り、自力での階段の昇り降り、階段昇降機も時々利用し自室との行き来を行っている。共用空間の家具や調度品も昭和レトロの家庭的で落ち着いた温もりを感じさせ、お喋り好きな仲間同士が寛いで話に花を咲かせ、また管理者の声かけに表情豊かに応答し関心を示す姿もある。今年度は自粛であるが、例年、事業所の海鮮祭りには住民が訪れて賑わっている。昨今は感染症対策を講じつつ収穫した野菜や葡萄のお裾分けなど地域との交流を継続し、軽川の花見、手稲山への紅葉狩り、コンビニエンスストアやドラッグストアへの外出や買い物支援を行っている。食事や排泄等の生活リズムを整える支援により自らトイレへ行く意思表示が可能となったり、歌が好きな利用者では歌えるように水を向け色々な話題を職員と楽しむうちについては自分の名前を言えるようになり、介護度が一段階下がった利用者が2名いるなど介護計画に基づく介護力の高さも特筆できる。職員の入職に当たり優しい人柄を重視しており、真心こもった親身になる支援が利用者の心に届いている。生き生きと自信を回復できる場所、自分の居場所がある環境を自然体で作り上げている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	表にして繰り返しスタッフと確認して実践している。理念を日常生活の中で機会あるごとに繰り返しスタッフと確認しあっている。	開設時に作り上げた「地域の中で一人一人がその人らしく、最期まで生き生きと暮らせるように支援します」の理念を標榜し、日々のサービス提供場面で実践に取り組み全体のものとしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	積極的な交流をしている。 入居者全員が町内会員になりごみ当番の参加、挨拶、畑での収穫物の配布など積極的行動を続けている。	今年度は自粛であったが、例年、事業所海鮮祭りに地域住民が訪れ賑わっている。今年度も可能なところで畑の収穫物や葡萄を近所の方へお裾分けし、リサイクル活動に協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	手稲地区、西区からの問い合わせが増えてきている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かしている。 コロナ禍で後半は十分な集まりができてないが、ホームでの会議報告書を各委員へ提出し確認してもらっている。	令和2年9月より事業所職員のみにより会議運営し、議事録をメンバーや家族へ通知している。感染症対策、病院受診状況、熱中症、日々の暮らしの情報などを報告している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	機会あるごと相談している。 最近では生活介護、認定調査に関しての相談が多い。	市の担当者から感染症に係る資料やメールが届き、適宜回答し、また通知を受け感染症発生時における業務継続計画書の整備に至っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	繰り返し機会があるたび、スタッフと確認と話し合いを続けている。 身体拘束、精神的拘束についてマニュアルを常備し日々のケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化に係る指針を定め、指針に則り委員会を開催している。また、これらに係る内部研修を実施している。本人の行動を否定せず、抑圧のないケアの実践に取り組んでいる。玄関の施錠は夜間帯と日中は利用者の状態を鑑み安全対策として施錠を行う場合がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルに基づき定期的に事例を説明、指導している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	反映している。 現状ではご家族の皆様の来園者が少なくなっているが電話、短い訪問でも今まで以上に濃い連絡をしている。	家族へ利用者個別の便りや運営推進会議録を送付し、運営及び利用者の状況を通知している。家族から本人に提供したい物が届いたり、利用者からは買い物に行きたいなどの声上がり、適宜対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	十分に反映できるように努力している。 朝、夕の申し送り時管理者、スタッフの連絡帳に基づき意思の伝達を図っている。	管理者は職員からの行事や食事、外出等に関する提案や意見、情報を取り入れ一緒に話し合いながら調整している。希望休制度により働きやすい環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理想とは言えないにしても、現状出来る限り個別に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	互いに勉強、トレーニングをするように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今期は思うよう出来てない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に精神面での把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最近では家族間での問題を抱えて入居される事例が多くその情報に注意を払っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフ全員が入居者さんと家族という関係を築けるように。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている。 最近は少し難しくなった。	自肅以前は知人の訪問や事業所で利用者の墓参に同行するなどしていた。昨今は家族との面会が難しいが電話の取り次ぎのサポートや、近所から入居した利用者は馴染みの地域にある住処となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努めている。 感情、趣味、食べ物、可能な限り希望にそうべく支援とアセスメント表にして繰り返しスタッフと確認しあっている。	職員は利用者との関わりを大切にし、何が本人の希望であるかを当たり前の自然な暮らしの中で日々把握し、アセスメントしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成している。 六か月ごとの見直し作成し、スタッフと確認ひびモニタリングを確認のうえ）ご家族の皆様への送付確認をしてもらっている。	モニタリングは管理者、介護支援専門員が職員と確認し合い実施し、関係者間の意見を反映させ今後のより良いケアに結びつく必要な支援を盛り込んだ介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。 それぞれの対応が非常に増えているが病院との対応は十分にできている。	協力医療機関内科医による月1回の往診と歯科医による月2回の往診体制を整えている。他科受診の通院支援を行っている。受診前後は家族へ状況を伝え、診療内容を受診記録に記している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいる。 医療行為が必要なことが多くはなっているが可能な限り対応はしている。	重要事項説明書に入居者が医療を必要とする場合の処遇、契約等の取り扱い等を明示し契約時に説明している。医療と連携し利用者の今後の状態の予測を含め家族と早期から話し合う機会を確保している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	24時間対応はしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	築いている。 昼、夜間、冬期想定した災害訓練、マニュアル設置、常備品補充確認をしている。	令和2年6月と11月に夜間想定火災及び自然災害の避難訓練を実施している。公的避難場所以前の一次二次避難場所を取り決め、地域協力者、災害備蓄品を確保している。	災害備蓄品の更なる強化に向け発電装置の設備を検討しているので、その取り組みに期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応している。	書類は事務所内に保管し、記入も利用者の目の届かない場所で行っている。一人ひとりに親身になって心に届く言葉かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行っている。 各人の出来ることの範囲でスタッフと共同で行っている。	栄養士作成の献立を利用している。後片づけなど、可能な事を一緒に行っている。お正月に蟹や、ひな祭りには桜餅やケーキ等、利用者の希望を取り入れながら行事食を積極的に取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	支援している。 昼間、夜間、自力での排せつの促し見守りを続けている。	24時間生活変化シートに排泄を記録している。全員がトイレでの排泄が可能であり、夜間も可能な限りトイレでの排泄を支援している。一人ひとりに合わせた声かけ誘導を行い失敗を減らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	支援している。 木曜日以外毎日三名程度の入浴を楽しんでいる。	木曜日以外一人当たり週2回の入浴支援を行っている。一人ひとりの生活習慣に合わせ、できる事を自分でやらせよう事で、入浴を楽しみにしている利用者が多くいる。浴室を予め温めたり、湯温を好みの温度に調整することで安心して入浴ができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	支援している。 朝食後の近所周りの散歩、さくらの軽川の花見、手稲山の紅葉狩り、買い物、通院、ドライブなど	天候の良い日は朝食後に近隣の花畑等を見ながら散歩を行っている。軽川や星観緑地で花見や手稲山に紅葉狩りに出かけている。利用者の希望で個別に買い物の支援を行うこともある。冬季はドライブなどで、外気に触れる機会を作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫している。 今まで以上に消毒、清潔面を徹底し従来の落ち着いた雰囲気づくり穏やかな生活空間を全員でたもてるようにしている。	食堂から続いた居間は窓からの陽射しと照明で明るい空間となっている。利用者手作りの装飾や顔写真から温かみを感じられ、加湿器等の設置で快適に過ごすことができる。利用者は共用空間でカラオケや会話を楽しみ、笑顔が溢れている共用空間となっている。階段には昇降機が設置されており安全に昇り降りすることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫している。 本人が生活していた、馴染みのものや使い慣れているものの中での生活をしてもらっている。	暖房器具が備え付けられている。利用者はベッドやタンス、机、椅子などの使い慣れた家具を持ち込んでいる。家族の写真や花など本人の好みの物を飾り付け、安心して過ごすことが出来る居心地のよい居室が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫している。		

(別紙4-2)

目標達成計画

事業所名 グループホーム郷

作成日：令和 3年 3月 28日

市町村受理日：令和 3年 4月 5日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	ブラックアウトを経験して、食料、備品等については問題はなかったものの、電源が不通になり入居者に不安な生活をさせてしまう。	災害時できるだけ通常の生活を続けていけるよう、食料、衣料品の備蓄の継続、安全な移動場所の確保、災害訓練の継続、停電時の必要最低限の電力確保の発電機の設置する。	食料の定期的確認。発電機(小型)の確保。	一年間
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。